

1.マイワシ漁獲状況概要

三陸各港における3月のマイワシの漁獲量は前年の2.4倍であった。女川と石巻でのマイワシの3月の漁獲量は2,310トンで前年同期(1,337トン)の約1.7倍であった(表1)。小名浜から銚子における主要4港のマイワシ漁獲量は34,810トンで前年同期(13,900トン)の約2.5倍であった(表2)。

表1 三陸各港におけるマイワシの漁獲量

水揚げ港	2019年3月 (トン)	2018年3月 (トン)	前年比
大船渡	—	239	—
気仙沼	—	—	—
女川	1,212	609	1.99
石巻	1,098	489	2.25
合計	2,310	1,337	1.73

(出典：おさかなひろば)

表2 常磐各港におけるマイワシの漁獲量

水揚げ港	2019年3月 (トン)	2018年3月 (トン)	前年比
小名浜	729	153	4.76
大津(茨城)	378	—	—
波崎	3,352	1657	2.02
銚子	30,351	12,090	2.51
合計	34,810	13,900	2.50

(出典：おさかなひろば)

2.マイワシの体長組成

金華山沖で今年3月上旬に定置網により水揚げされたマイワシの体長組成は11～13cm(1歳魚、2018年級群)が主体であり、前年同期では11～14cm(1歳魚、2017年級群)であった(図1)。茨城県沖で今年3月下旬にまき網により水揚げされたマイワシの体長組成は16～18cm(2歳魚、2017年級群)が主体であり、前年同期では18～21cm(3歳魚、2016年級群)であった(図2)。水揚げ物の体長組成について鹿島沖では前年と違いが見られたが、金華山では前年と類似していた。

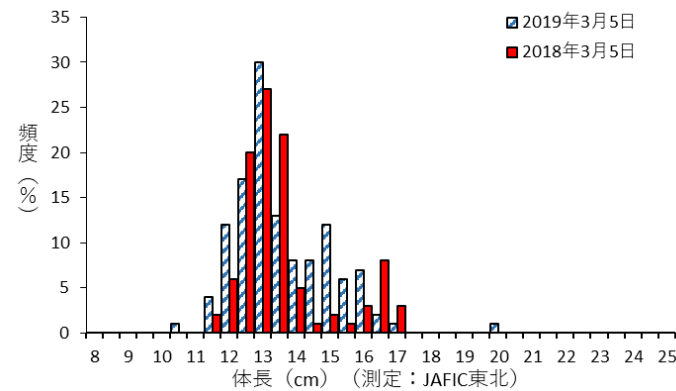


図1 3月上旬の金華山沖における定置網水揚げ物
体長組成の前年比較

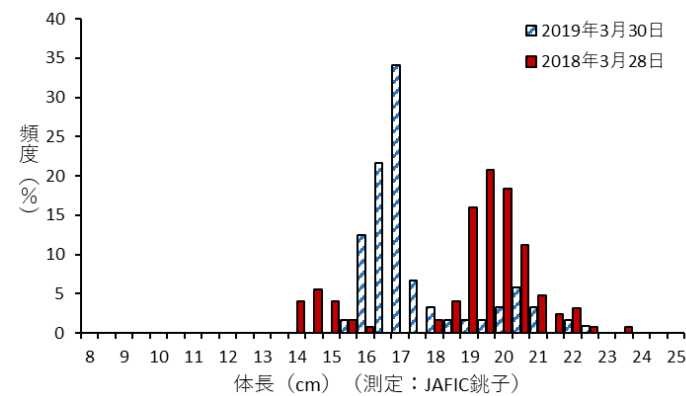


図2 3月下旬の鹿島沖におけるまき網水揚げ物
体長組成の前年比較

3.海況の特徴

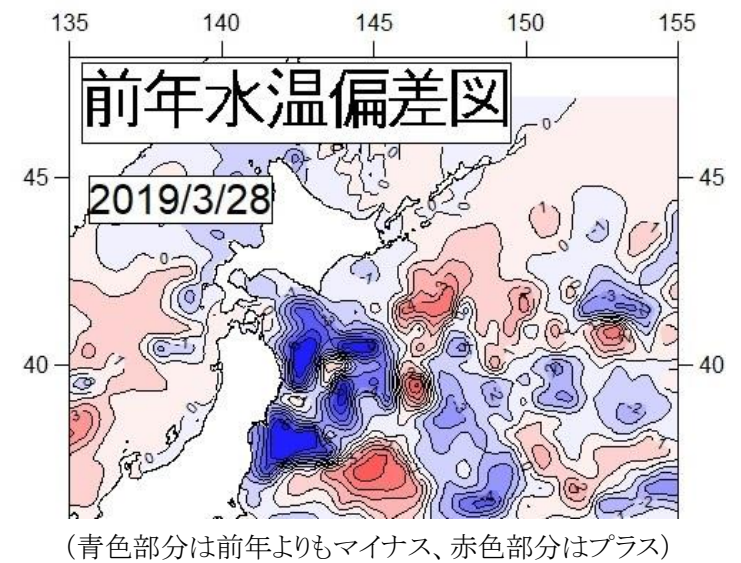


図3 3月28日における東北沖の表面水温前年偏差図

三陸北部沿岸は前年よりも3～5℃低く、その沖合には2～3℃高い海域が見られた。

4.まとめ

2017年級、2018年級の豊度が高いことから、漁獲量は三陸海域、常磐海域ともに前年を上回った。大船渡、気仙沼では水温の低下により、漁獲が見られなくなった。また、今年の3月下旬に鹿島沖で漁獲されたマイワシは2歳魚が主体であった。前年の3月下旬に同海域で漁獲されたマイワシは3歳魚が主体であった。前年は3月下旬から4月上旬にかけて銚子沖で20cm以上(3歳魚、2016年級群)が漁獲されたが、今年の3月下旬には20cm以上のマイワシの漁獲はあまり見られなかった。今年は3月時点ではマイワシの北上傾向ははっきりとは見られなかった。

(漁海況部)